

常用漢字用字用例辭典

武部良明編

常用漢字 用字用例辭典

武部良明 編

教育出版

序 文

この本は、普通に使われている漢字について、その好ましい用い方を明らかにした辞典です。漢字の用い方が分からないときにこの辞典を引けば、そのことがすぐ分かるようになっていきます。

今度新しく行われることになった漢字の用い方は、常用漢字表の字種・字体・音訓等に基づいて、それぞれの漢字の用い方に一応の目安があります。そのため、文章を書いているとき、漢字で書くのか仮名で書くのか、漢字はどんな漢字で書くのか、送り仮名はどのように付けるのか、などで迷うことが少なくありません。そこで、この本では、それぞれの漢字の読み方をすべて見出し語とし、それに送り仮名も付け、目指す語の好ましい書き方が容易に分かるようにしました。

また、漢字の用い方に関する知識は、関連した用例を参照することによって深められます。そこで、この本では、用例の配列その他に意を用い、漢字を勉強する上でも利用できるように構成しました。つまり、この本は、文章を書くための辞書であるとともに、漢字を覚えるための参考書ともなるわけです。

どうか、この本をいつも机の上に置いて参照してください。そうすれば、好ましい文字遣いの文章を書く上で役に立つだけでなく、漢字に関する知識も知らず知らずのうちに深められていくに違いありません。

昭和五十六年五月

編 者

使用上の注意

見出し語 この辞書では、普通に使われている漢字の読み方をすべて見出し語とし、それを「現代かなづかい」による五十音順に配列しました。その際、**字音**は片仮名、**字訓**は平仮名で示しました。なお、同じ仮名の場合、清音・濁音・半濁音、小文字・大文字の順に、同じ読み方の漢字が幾つもある場合は、字音・字訓の順に、画数順、画数が同じ場合は部首順に並べ、使い分けが問題になる異字同訓は、見出し語の平仮名の部分を「—」にしました。また、現代表記では仮名書きになる漢字も便宜加え、もとの表記法を(—)に入れて区別しました。なお、字音を見出し語とする漢字には適宜(—)で旧字体を掲げ、明治以来の活字字体とのつながりを示しました。

アク 悪(悪)悪に染まる 社会悪 ……

あく 明く ○背の明いた洋服 ……

— 空く ○席が空く 手が空く ……

— 開く ○幕が開く 戸が開く ……

あく 飽く ○飽かず眺める 飽くまでも ……

あく (灰汁)あくを抜く あくの強い文章 ……

用例の示し方 それぞれの見出し語の下に「○」を置き、その後その漢字のその読み方で主な用い方を用例の形で示しました。その際、五十音順でなく、意味の関連や語の構成という観点から並べました。ただし、その漢字の用い方が意味や語の構成の上で大きく分けられる場合には、さらに「○」で区切りました。そうして、必要に応じ、それぞれの場合の意味を小文字で書き加えました。

また、例外的な書き方や注意すべき書き方を示す場合には、特に「▽」で区切りました。

イ 依

○よりかかる 大国に依存する 依頼心 解説の依頼 …… ○もとのまま 旧態依然 …… ○よつて 願退職 依命通達 ▽まる(→依る) 命(→)によって ▽い(こ) (→依怙地)

変化形の扱い 字音で濁音化するもの、促音化するもの、字訓でも語の構成要素として特別の音になるもの、などは別見出しにしました。その際、他の要素の前にのみ用いるものには後に「—」を付け、他の要素の後にのみ用いるものには前に「—」を付けました。

キョク 曲 ○曲線 曲直 …… ○交響曲 曲目 ……

—ギョク 曲 ○音曲の類 歌舞音曲 ……

キョツ 曲 ○表現を曲解する 曲解無用 ……

あま 雨 ○雨雲 雨曇り 雨脚が速い ……

あめ 雨 ○雨が降る 大雨 雨降り ……

—さめ 雨 ○小雨 春雨 水雨 ……

ただし、二語の連合による連濁でその頭音が変わる場合は、「○」で区切りました。また、連濁でも、疊語の場合、助数詞の場合、字音で語を単位とする場合などは、適宜用例の中に示しました。

かわ 川 ○川の水 川上 …… ○がわ 小川 天の川 ……

かえす 返す ○元の持ち主に返す 借金を返す …… 返す返す …… ○がえす 裏返す 二つ返す ……

カイ 階 ○階段 階下 …… ○階級 所得の階層 ……

記号の使い方 説明を簡略にするため、用例の中に次のような記号や小文字を用いました。

哀惜の念/愛惜の品 同音語のうちの紛らわしいものを対照する場合に「/」を用いました。

愛好／趣向 「愛向」「趣好」が誤りであることを示す代わりに、「愛好」「趣向」を「」で対照させました。

愛煙家 たばこ好き 意味を示すことはこの辞書の本来の趣旨ではありませんが、必要な場合に小文字で書き加えました。

悪業 業の報い 普通の読み方と異なる場合や読み方の分かりにくい語の場合は、振り仮名の代わりに二行割りの平仮名でその部分の読み方を示しました。

両々相まって(俟) 普通は仮名で書く部分につき旧表記を参考にするのが好ましい場合は、「」の中にその漢字を入れて示しました。

(安堵) + 安心 言い替え語のある場合は、元の語を()で包み、「」の後にその言い替え語を示しました。

かわい(可愛い) 全体が仮名書きになる場合は、「」の中に旧表記を入れました。

会う(逢う・遇う) 別の漢字に書き替える場合も、「」の中に旧表記を入れました。

漢字の他の読み方(1) それぞれの項の最後に「○」で区切り、その漢字の他の読み方のうち普通に用いるものが用例の形で一覧できるようにし、送り仮名を要するものは送り仮名も付けて示しました。

その際、見出し漢字が音読の場合は字音を先に、訓読の場合は字訓を先にし、それぞれ同系統の用例を「」でまとめました。

また、熟字訓など特別の読み方になるものは、字音と字訓の間にまとめて入れました。

漢字の他の読み方(2) 「○」で区切った代表的な読み方を取り出して、見出し語の次に小文字で並べました。このほうは字音・字訓の順にし、見出しと重複するものを適宜省きました。

おんな 女 ○女と男 女の子 女連れ 女心と秋の空 女の細腕
ジヨ・ニヨ 女手一つで…… ○おんなめ 女神 ○乙女め
め 早乙女め 海女め ジヨ 女子 ○ニヨ 天女 ニヨウ 女房 ○ジヨ

また、原則として各漢字の主たる字音が見出し語となっている項で、その漢字の字音と字訓とが一覧できるようにしました。すなわち、その漢字の普通に用いる他の字音・字訓のすべてを二字下げの見出しとして加え、それぞれ本来の見出しの下にある用例の一部を引いて示しました。

ジヨ 女 ○男女 男尊女卑 女子用／女史 ……

ニヨ ○天女 女に禁制 女身 ……

ニヨウ ○女房 女房(こば(詞)) ……

おんな ○女と男 女連れ 女手一つで ……

め ○女神 女々しい 浮かれ女 ……

その場合、どの読み方のときにそのような示し方がしてあるかを明らかにするため、前記「漢字の他の読み方(1)」の最後に「○」で見出し語を示しました。

内閣告示との関係 この本の漢字の用い方は、国語審議会答申の

「常用漢字表」を基礎としました。この「常用漢字表」というのが、従来の内閣告示「当用漢字表」「当用漢字字体表」「当用漢字音訓表」に代わる新しい規範になるものと考えられています。

また、仮名遣いは「現代かなづかい」に、送り仮名は「改定送り仮名の付け方」に従いました。

ただし、送り仮名については、本則と例外に従い、許容は示してありません。送り仮名の少ない形などを希望する場合は、巻末「送り仮名の付け方」を参照し、規則的に処理することができます。

漢字の音と訓

日本語の中で使われている漢字の読み方には、「音(字音)」と「訓(字訓)」とがあります。「手」という漢字を「シュ」と読むのが音で、「て」と読むのが訓です。

音というのは、その漢字の中国語としての発音が日本に伝わって多少崩れたものです。訓というのは、その漢字の中国語としての意味に当たる日本語が、その漢字の「読み」として固定したものです。したがって、漢字を音で読めばそれが伝わってきたころの中国語の発音に似た発音となり、訓で読めばそのままその漢字の日本語訳になるというのが、音訓の実体です。つまり、「手」という漢字の訓が「て」であるということは、「手」という漢字の日本における読み方の一つであるとともに、「手」という漢字の意味にもなるのです。

したがって、一つの漢字の意味に当たる日本語がいろいろある場合、その漢字にはいろいろの訓が行われます。「行」という漢字を「いく・ゆく・おこなう」と読むのはそのためです。また、音の場合も、日本に伝わってきた経路や時代の違いにより、一つの漢字にいろいろの音があります。「行」という漢字を「ギョウ・コウ・アン」と読むのがそれです。

ただし、漢字の中には、「菊」「胃」のように、それに当たる適当な日本語がないために訓を持たないものがあります。また、「峠」「込」のように、漢字をまねて日本で造った文字の中には、音に当たるものが存在しない場合もあります。もっとも、本来の漢字の中にも、「扱」「貝」のように、一般にはその音の用いられない場合があり、日本で造った文字の中にも、「働」「搾」のように、類推の形で音の行われているものがあります。

漢字熟語の構造

一つ一つの漢字は、訓の有る無しにかかわらず、特定の意味を持っていきます。そうして、結び付く順序によってそれらの意味の相互関係が生まれます。それを例示すると、次のようになります。

- (1) 上の漢字の意味が下の漢字の意味に係っていく。
 - 月末「つき」の「すえ」 美人「うつくしい」「ひと」
 - 休日「やすむ」「ひ」 最高「もっとも」「たかい」
 - 確定「たしかに」「さだめる」 快走「こころよく」「はしる」
 - 雷鳴「かみなり」が「なる」 前進「まえ」に「すすむ」
 - 射殺「うって」「ころす」 平然「たいら」な「ようす」
 - (2) 下の漢字の意味が上の漢字の意味に係っていく。
 - 開店「みせ」を「ひらく」 乗車「くるま」に「のる」
 - 有名「な」が「ある」 多言「こと」が「おおい」
 - 不動「うごか」「ない」 被疑「うたがわ」「れる」
 - (3) 同じ意味の漢字が続く。
 - 根本「ね」と「もと」 貧乏「まずしく」「とほしい」
 - 申告「もうし」「つげる」 再三「ふたたび」「みたび」
 - 黙々「だまって」「だまって」 少々「すこし」「すこし」
 - (4) 反対の意味の漢字が続く。
 - 昼夜「ひる」と「よる」 売買「うったり」「かったり」
 - 晴雨「はれ」か「あめ」か 高低「たかい」か「ひくい」か
 - 安否「やすらか」か「そうでない」か
- したがって、漢字によって造られた熟語については、個々の漢字の意味とそれの複合関係を知ることにより、その熟語の意味がそれだけ理解しやすくなるわけです。

ア・あ

ア 亜(亞) ○そのつき 亜熱帯 師の亜流をくむ(汲) 追隨 亞硫酸

亜鉛 亞麻 ○白亜の殿堂 ○アジア 東亜 東南

亞 歐亞航路 ○アルゼンチン 日亞貿易 ○亞(下)亞

▽次ぐ(下)亜ぐ)

アイ

哀

○かなしむ 喜怒哀楽 幻滅の悲哀 哀切極まりない

哀愁を誘う 哀感に打たれる(哀歎)もも至る 哀悼

の意を表す 助命を哀願する 泣き付く 涙ながらに哀訴

する 哀調のメロデー 哀傷歌/愛唱歌 哀惜の

念/愛惜の品 哀別の情/愛別離苦 ▽かわいそう

(+可哀そう) ▽悲しい・悲しむ(哀しい・哀しむ)

あわれ

アイ

愛

○哀れな話 哀れっぽい 物哀れな 哀れけ 哀れがる

○生き物を哀れむ 哀れみを掛ける 月を哀れむ愛する

○友を愛する 愛らしい 愛くるしい 愛情を不す 愛欲

恋愛 友愛 慈愛あふれる(溢)手紙 博愛衆に及ぼす

末子を偏愛する (溺愛が) +盲愛 御自愛を祈ります

愛好/趣向 敬愛する偉人 親愛なる友 愛縁に引か

れる/合い縁奇縁 愛着(お)を覚える 愛護の精神 愛

国心 愛郷心 愛読書 最愛の妻 愛妻家 愛煙家

たばこ好き 列車の愛称 愛唱歌/哀傷歌 愛別離苦/

哀別の情 愛きよう(敬)がいい 愛想(お)がいい 愛想

を尽かす 御愛顧を願う 音楽を愛好する 愛用の万

年筆 愛かん(玩)物 亡父遺愛の時計(り) (愛撫(お))

アー あいさつ

アイ

(隘)

あい

相

ソウ・シヨウ

○くびれる (隘路が) +障害 (狹隘(せう)) +狭小

○相争う 相對する 相次ぐ大事件 相共に 両々相

まつて(俟) 相異なる 相入れない 相寄り相助けて

功罪相半ばする 相対する(で)相談で 相成る 相変わ

らず 相済まない 武士は相身互い 相性(せい)を見る

相合い傘で行く 相手 相棒 相乗り 相容 相席

相づち(槌)を打つ 入相(いりあ)の鐘 ▽あいこ ○あいこ 相

撲(お)も ソウ 相談 ○シヨウ 首相 ○ソウ・シヨウ

○合言葉 合いかぎ(鍵) 合い札 合い縁奇縁/愛縁

に引かれる 合間(あ) 合いの着物 合い服 合いの手

合図(あ) 幕合い 山合いの家 沖合い 話し合い 見

合い結婚 請け合い 気合い 度合い 筋合い 色

合い 意味合い 釣り合い 振り合い 場合 割合

歩合 組合/取っ組み合い 試合/泥仕合(ど) 待

合 ▽ぐあい(+工合・具合) ころあい(頃) あいのこ

混血 ▽合い(中間) ▽動詞はあごを見よ ○あう

合う 合わせる 合点(あ)ゴウ 合計 ガッ 合

併(お)カッ 合戦 ○ゴウ

合い

ゴウ・カッ

あう

あいくち(じ)首

あいさつ(挨拶)

あいくちで刺す

▽合い口 合わせ目

▽つばのない短刀

あいくちで刺す

▽合い口 合わせ目

あいくちで刺す

▽合い口 合わせ目

あいくちで刺す

▽合い口 合わせ目

あいだーあかす

あいだ 間 ○この間から 戸と戸との間 両者の間に入る 間食い

カン・ケン 親子の間柄 ▽合い(△問あじ) ○あいだ○ま 客間

ま ○カン 間隔○ケン 世間○ゲン 人間^{じんかん} ○カカン・ケン

あいつ (彼奴) ○あいつのやり方(遣) あいつは困る

あいにく(生憎) ○あいにく雨になる あいにくな(と) おあいにくさま

あいまい(曖昧) ○あいまいな発音 あいまい表現 あいまいも(「模糊」)

あう 合う ○計算が合う 意見が合う つじつま(辻褄)が合う 目が合う 服が体に合う 好みに合う 割に合わない仕事 駅で落ち合う 話し合う 請け合う 間に合う ▽名詞 は「あい」を見よ ○あう△合う△合わせる△台点^{だいてん} ○ゴウ 合計ガッパ 合併○カッパ 合戦 ○ゴウ

会う ○客と会う時刻 人に会いに行く 道で出会う (行き会う 巡り会う 談判に立ち会う 立会人 ▽会う(逢う)遇う^{あう}) ▽あひびき(逢引密会) ○あう会う○カイ 会話○エ 会得 ○カイ

遭う ○災難に遭う 交通事故に遭う にわか雨(俄)に遭う 野党の反対に遭う ○あう○ソウ 遭難 ○ソウ

あえぐ (喘ぐ) ○生活苦にあえぐ あえあえき登る

あえて (敢て) ○あえて言う とりあえず あえない最期 ▽あえて(背て) あえる (和える) ○じま(胡麻)であえる あえもの ▽あえる(齧える)

あお 青 ○青と赤 青写真 青光り 青筋を立てる 青々と茂る 青物 目に青菜 青菜に塩 青二才年若い男 青田 買い 青刈り 青息吐息 青白い顔 青くさい 青ざめる ▽真つ青^{まことあお} ▽青(碧・蒼^{あざ}) ○あお 青物 青い ○セイ 青年 ○シヨウ 緑青^{ろくせい} 群青 ○フセイ

あおい 青い ○青い色 濃い青さ 青みを帯びる ▽青い(碧い・蒼い)

セイ・シヨウ 青い ○真つ青^{まことあお} ○セイ 青年 ○シヨウ 緑青^{ろくせい} 群青 ○フセイ

あおぐ 仰ぐ ○教えを仰ぐ(扇子であおぐ(扇) 仰ぎ見る山々 ▽あおのけさま あおむ(仰向く) ○あおぐ ○おおせ 仰せ ○キョウ 仰角○コウ 信仰○ゴウ 渴仰 ○キョウ

あおる (煽る) ○人気をあおる あおり立てる 買いあおる ▽あおる(叩る 一息に飲む) 酒をあおる 毒をあおる

あか 赤 ○赤と白 赤信号 赤帽 赤茶ける 赤字財政 赤貝 赤ん坊 赤子 赤裸^{はだか} 赤恥をかく(掻) 赤々と燃える/明々と輝く ▽真つ赤^{まことあか} ▽赤(丹・朱・紅・赭^{あか}) ▽あかの他人 ▽あかあかがね(銅) ▽あけ(朱) ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかい 赤い ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかく (足掻く) ○必死にあかく 最後のあがき 悪あがき

あかす 明かす ○一夜を明かす 語り明かす 種を明かす 説き明かす

メイ・ミヨウ 夜明かし 種明かし ▽あかし(灯・証) 仏前のあかし あかしを立てる ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明るく ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○明日^{あした} ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あか (垢) ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかい 赤い ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかく (足掻く) ○必死にあかく 最後のあがき 悪あがき

あかす 明かす ○一夜を明かす 語り明かす 種を明かす 説き明かす

メイ・ミヨウ 夜明かし 種明かし ▽あかし(灯・証) 仏前のあかし あかしを立てる ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明るく ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○明日^{あした} ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あか (垢) ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかい 赤い ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかく (足掻く) ○必死にあかく 最後のあがき 悪あがき

あかす 明かす ○一夜を明かす 語り明かす 種を明かす 説き明かす

メイ・ミヨウ 夜明かし 種明かし ▽あかし(灯・証) 仏前のあかし あかしを立てる ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明るく ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○明日^{あした} ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あか (垢) ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかい 赤い ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかく (足掻く) ○必死にあかく 最後のあがき 悪あがき

あかす 明かす ○一夜を明かす 語り明かす 種を明かす 説き明かす

メイ・ミヨウ 夜明かし 種明かし ▽あかし(灯・証) 仏前のあかし あかしを立てる ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明るく ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○明日^{あした} ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あか (垢) ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかい 赤い ○赤い色 赤い屋根/あか(銅)でふいた(葺)屋根 赤い羽根 赤さ 赤みを帯びる/魚の赤身 ▽赤い(丹い・朱い・紅い・赭い^{あか}) ▽あかんべ ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ赤^{まことあか} ○セキ 赤飯 セツ 赤化 ○シヤク 赤銅 シャツ 赤口^{あかぐち} ○セキ

あかく (足掻く) ○必死にあかく 最後のあがき 悪あがき

あかす 飽かすの金に飽かして遊ぶ 暇に飽かして作る ○あきる 飽きる

ホウ・あきる 飽く 飽かす ○ホウ 飽和 ○ホウ

あかつき 暁 ○暁の空 完成の暁には実現したとき ▽あかとき(下暁)

ギョウ ○あかつき ○ギョウ 今暁 ○ギョウ 罪をあがなう

あがなう(購う) 書をあがなう ▽あがなう(下贖う) 罪をあがなう

あがめる(崇める) ○神をあがめる 祖先をあがめる

あからむ 赤らむ 顔が赤らむ 赤ら顔の男 ○あか 赤帽 赤い 赤らむ

赤らめる ○真つ赤まる ○セキ 赤飯 セウー 赤化 ○シヤク

あか セキ・シヤク 赤銅 シヤツ 赤口つく ○セキ

明らむ ○東の空が明らむ 奥が明らむ ▽あからさまに言う

あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○あ

く 明く 明ける 明かす 明かり 明くる ○明日 あす ○メイ

あきらか・あく 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あからめる 赤らめる ○顔を赤らめる 目を赤らめる ▽赤らめる(下赧ら

める あかし) ○あか 赤帽 赤い 赤らむ 赤らめる ○真つ

あか 赤 あか ○セキ 赤飯 セウー 赤化 ○シヤク 赤銅 シヤツ 赤

口つく ○セキ

あかり 明かり 明かりがさす(射) 明かり取り 月明かり 電灯の明か

り ▽明かり(下灯 あかり) ○あく 明く 明ける 明かす 明

かり 明くる ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あきらか

あきらか 明らか ○明日 あす ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あがる 上がる 階段を上がる お宅へ上がる 地位が上がる 物価が

上がる 腕前が上がる 利益が上がる 能率が上がる

ジョウ・シヨウ 雨が上がる 食事を上げる 召し上がる 浮かび上がる

あげる・のぼる 干上がる 上がって失敗した 商売上がった 上

うえ・かみ 口 色の上がいい 病気が上り 雨が上が

り 口 色の上がいい 病気が上り 雨が上が

あかす — あきらか

がる(下騰がる) ○あげる 上げる 上がる ○のぼる 上る

上す 上せる ○うえ 目上 上う 上着 上着 ○かみ 川上 ○上

手たて ○シヨウ 地上 ○シヨウ 上人 ○シヨウ

キョ・あげる 挙がる 例が挙がる 証拠が挙がる 犯人が挙がる ○あげる

キョ・あげる 揚がる 花火が揚がる た(下)風が揚がる 歓声が揚がる 風

彩が揚がる 国威が揚がる てんぶら(天婦羅)が揚がる

あげる 揚げる 揚げる 揚がる ○ヨウ 抑揚 ○ヨウ

あかるい 明るい 外が明るい 地理に明るい 計数に明るい 明々と輝

く 赤々と燃える ○あかるい 明るい 明るむ 明らむ ○あ

きらか 明らか ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明くる

○明日 あす ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あかるむ 明るむ 窓が明るむ 明るんだ空 明るみに出る ○あかるい 明

るい 明るむ 明らむ ○あきらか 明らか ○あく 明く 明け

る 明かす 明かり 明くる ○明日 あす ○メイ 明確 ○ミヨウ

あきらか・あく 明年 ○メイ

あき 秋 秋の七草 秋晴れ 秋日和 秋雨 秋あき 秋あき(下蚕)

シユウ ○あき ○シユウ 晩秋 シユウ 春秋 ○シユウ

あきなう 商う 魚を商う 商いが多い 商い繁盛 担ぎ商い 大商い

シヨウ 薄商い ▽商い(下商内 あき) ▽あきんど(下商人) ○あ

きなう ○シヨウ 商売 ○シヨウ

あきらか 明らか 明らかな証拠 火を見るよりも明らか 明らかに彼の責任

事情が明らかになる 月の明らかな夜 ▽明らか(下昭ら

か・顕らか あき) ○あきらか ○あかるい 明るい 明るむ 明

らむ ○あく 明く 明ける 明かす 明かり 明くる ○明日

あす ○メイ 明確 ○ミヨウ 明年 ○メイ

あきらめる — あける

あきらめる(諦める)。進学をあきらめる。あきらめが肝心だ

あきる 飽きる。勉強に飽きる。見飽きる。飽きるほど食べる。飽きることを知らない。飽き足りない。飽き飽きする。飽きが来る。飽きっぱい。▽飽きる(厭きる)。○あきる 飽きる

ホウ

飽く飽かす。○ホウ 飽和 ○ホウ

あきんど(商人)。あきんどの町 旅あきんど あきんどかたぎ(氣質)

アク 悪(悪)。悪に染まる 社会悪 罪悪感に駆られる 旧悪が現れる 悪意を持つ 悪質な手段 凶悪な犯人 醜悪な争い

露悪趣味 俗悪な漫画 粗悪な品 害悪を流す 悪路 悪臭が漂う 旧来の悪弊 悪習を打破する 悪疫流行 最悪の事態 天候険悪 悪事千里を走る 悪名(あざ)が高い 悪役を演じる 悪性インフレ 悪銭身に付かず 生来の悪筆 悪癖矯正 悪用 悪態をつく(吐)

悪魔に魅いられる 悪霊(あくま) 悪業(あくごう)の報い 悪行(あくこう)の限り 悪食(あくじき)いかものぐい 悪戦苦闘 悪逆無道 勧善懲悪 悪らつ(辣)な手段 (悪罵(あくば)は)悪口 悪たれ口 憎まれ口 ▽あくどい広告 ▽憎い・憎む(悪い) 悪む(悪む) ▽あし(悪し) ▽いたす(悪戯)

悪化 悪漢 悪貨 悪口(あくぐち)雑言(ざつごん)ひどい悪口

オ 憎悪 好悪が激しい 悪寒 悪阻(あくそ)つわり

わるい 憎い 握る 握力 把握 掌握

アク 握 堅い握手 握り 把握 握り締める 握り飯

アキ 握 手に握る 一握り 握り締める 握り飯

あく 明く 背の明いた洋服 ち(持)が明かない 目明き千人

メイ・ミョウ 明き盲 ○あく明く明ける明かす明かり明くる

あかるい・あきらか ○あかるい 明る 明らむ ○あきらか 明らか ○明

日キ ○メイ 明確 ○ミョウ 明年 ○ロメイ

空く ○席が空く 手が空く 店が空く 空家 店が開く 開店

クウ 空き 空箱 空き缶 空き俵 空き果ねらい(狙) 空ける ○そら 空色 ○から 空車 ○クウ 空気 ○クウ

開く ○幕が開く 戸が開く 店が開く 開店 店が空く 空家 開いた口がふさがらない(塞) ○あく開く 開ける ○ひらく

あく 飽く ○飽かず眺める 飽くなき野望 飽くまで ○あきる 飽きる 飽く飽かす ○ホウ 飽和 ○ホウ

あく (灰汁) ○あくを抜く あくの強い文章 あく抜き あく洗い

あくせく(齷齪) ○あくせく働く あくせくしても始まらない

あくび (欠伸) ○あくびが出る あくびをかみ殺す(噛) ▽あくび(欠) あぐら (胡坐) ○あくらをかく(構) あぐら鼻

あぐる (揚縁) ○あぐり綱(きんちやく)綱

あくる 明くる 明くる朝 明くる日 明くる年 ▽明くる(翌る) ○あく明く 明ける 明かす 明かり 明くる ○あかるい

あけつらう(論つ) ○欠点をあけつらう ▽あけつらう(評さ)

あける 明ける 夜が明ける 通路を明ける 店を明ける 留守 店を開ける 開店 一行明けて書く 明け放れる 明け渡る 城を

あきらか 明かす 明ける 明け方 明け暮れ 明けの日 明けて五年になる ○あく明く 明ける 明かす 明かり 明くる ○あかるい 明る 明らむ ○あきらか 明らか ○明日キ ○メイ 明確 ○ミョウ 明年 ○ロメイ

あかるい・あきらか ○あかるい 明る 明らむ ○あきらか 明らか ○明

空ける。家を空ける。引越し／家を明ける。留守。時間を空ける。

クウ 中身を空ける。体を空ける。○あく。空く。空ける。○そら

あく・そら・から 空色。○から。空車。○クウ。空気。○クウ

開ける。窓を開ける。店を開ける。開店／店を明ける。留守。後進

カイ に道を開ける。開け放す。開けたて(閉)。○あく。開く。開

あける。値を上上げる。音を上上げる。腕前を上上げる。効果を

上げる。仕事を上げる。完成。学校に上げる。お祝いの品

を上げる。書いてあげる。差し上げる。書いてさしあげる。

申し上げる。給料を引き上げる。仕上げる。仕上げ。仕

上工じょうこう。売り上げ。売上高。上げ板。上げ潮。▽上

げる(↑騰げるとげ)。○あがる。上げる。上がる。○のぼる。上

上す。上せる。○うえ。目上。うわ。上着。○かみ。川上。上

手て。○ジョウ。地上。○ショウ。上人。○ジョウ

キョ 挙げる。手を挙げる。全力を挙げる。兵を挙げる。式を挙げる。

例を挙げる。犯人を挙げる。挙げ用いる。重量挙げ

挙げ足を取る。挙句あげのの果てに。国を挙げて。挙げて任

せる。○あがる。挙げる。挙がる。○キョ。挙国。○キョ

ヨウ 揚げる。船荷を揚げる。花火を揚げる。たこ(風)を揚げる。旗を

揚げる。歓声を揚げる。国威を揚げる。てんぷら(天婦羅)

を揚げる。外地から引き揚げる。引揚者。巻揚機。荷揚

げ。陸揚げ。旗揚げ。揚げ幕。揚げ油。精進しょうじん。揚げ

○あがる。揚げる。揚がる。○ヨウ。抑揚。○ヨウ

あこがれる(憧れる)。女優にあこがれる。あこがれを持つ。あこがれの的

あさ。麻。麻糸。麻布。一面の麻原。浅ぢ(茅)

マ が原。荒れた野原。○あさ。○マ。乱麻。○マ

あける。あし

あける。あし

あける。あし

あける。あし

あける。あし

あさ。朝。朝と昼。朝な夕な明け暮れ。朝起き。朝焼け。朝け

チョウ (朝)のせん(膳)朝食。朝飯前の仕事たやすい。朝顔

朝つばから。朝またぎに起きる。早朝。▽朝日(↑旭あさひ)

○あさ。○今朝けさ。○チョウ。早朝。○チョウ

あざ。字。郡一村大字一字。字名なづな。字の名称。あざ名(字

は実名以外の名)。○あざ。○文字もじ。○ジ。活字。○ジ

あさい。浅い。浅い海。遠浅。浅瀬に乗り上げる。浅緑。浅黄色

浅漬けの大根。浅ぢ(茅)が原。荒れた野原。一面の麻原

浅はか。▽あさましい(↑浅間しい)。▽あさり(浅瀬)のみ

そ汁(味噌)。○あさい。○セン。深淺。○セン

あざける(嘲る)。失策をあざける。あざけりの気持ちで見える。▽あざ笑う

あざつて(明後日)。明日あしたをあざつて。あざつての方向。見当外れ

あざむく。欺く。人を欺く。まんまと欺かれる。昼を欺く。明るさ。▽あざ笑

ギ (嘲)。○あざむく。○ギ。詐欺。○ギ

あざやか。鮮やか。鮮やかな色。光鮮やか。鮮やかに描き出す。鮮やかな手

セン 際みごと。○あざやか。○セン。新鮮。○セン

あさる(漁る)。本屋をあさる。買ひあさる。あざり歩く

あし。足。足の裏。手足。素足すだ。後足。足首。足先。足下

ソク 足手まとい(纏)。足跡。足取り。足踏み。急ぎ足

足げ(蹴にする)。足を慣らす。足止めを食う。足音

客足。足しげく(繁)通う。足場。足掛かり。足固め

足代。交通費。足を出す。損をする。足を洗う。堅気になる。

足駄を履く。▽おあし。金銭。あしかけ三年。○あし

○たりの。足りる。足す。○足袋あしひら。○ソク。足跡。ソク

満足。ソッ。足下。○ソク

脚。脚が速い。机の脚。美しい襟脚。船脚ふねあし。雨脚あまあし

脚。脚が速い。机の脚。美しい襟脚。船脚ふねあし。雨脚あまあし

脚。脚が速い。机の脚。美しい襟脚。船脚ふねあし。雨脚あまあし

脚。脚が速い。机の脚。美しい襟脚。船脚ふねあし。雨脚あまあし

脚。脚が速い。机の脚。美しい襟脚。船脚ふねあし。雨脚あまあし

あし — あたたまる

キヤク・キヤ 日脚が伸びる ○あし ○キヤク 三脚 キヤツァー 脚光 ○キヤ

脚半一キヤ 行脚あし ○キヤク

あし (悪し) ○よしあし あしからず あしさま(様)に言う 折あしく

あじ 味 ○味を付ける 味を見る 味見ノ毒味 味付け 味加減

味を占める 味なまね(真似)をする 味気のない ○あじ

塩味 味わう ○三味線せみ ○味覚 ○

あした (明日) ○あしたとあさって △明日 あ △雪のあした(朝)

あしらう(遇う) ○軽くあしらう △あしらう(配う) 緑をあしらう

あじわう 味わう ○味を味わう 苦労を味わう 味わいがある ○あじ 塩味

あす ミ・あじ 味わう ○三味線せみ ○味覚 ○

あす 明日 ○明日出発する 今日(日)明日にも △あした(明日)

あずかる 預かる ○金を預かる 預かり金 △御紹介にあずかる △あずか

る(与る) 御相談にあずかる あずかって力がある ○あ

ずける 預ける 預かる ○預金 ○

あずき 小豆 ○大豆と小豆 小豆色 △小豆は商品相場

あずける 預ける 銀行に預ける 子供を預ける 預け金 預け主 ○あず

ける 預ける 預かる ○預金 ○

あずま (東) ○あずま男に京女 △あづま(吾妻) △あずまや(四阿)

あせ 汗 ○汗をかき 額に汗する 汗水たらす(滴) 冷や汗 汗た

く 汗みずくになる 汗みどろ(塗)で働く △あせも(汗

疔) ○あせ 汗水 汗ばむ ○カン 発汗 ○カン

あぜ (畔) ○田のあぜ あぜ道 あぜ織り △あぜ倉(校)造り

あせばむ 汗ばむ ○厚着をして汗ばむ 汗ばんだ体 ○あせ 汗水 汗ばむ

カン・あせ ○カン 発汗 ○カン

あせる 焦る ○成功を焦る 聞き焦る 焦りが出る ○あせる ○こげる

ショウ・こげる 焦げる 焦がす 焦がれる ○ショウ 焦土 ○ショウ

あせる (褪せる) ○色があせる 色あせた花

あそこ (彼処) ○ここあそこ あそこち △かしく(彼処)

あそぶ 遊ぶ ○表で遊ぶ 遊び疲れる 悪遊び 夜遊び 遊び女

ユウ・ユ 遊ぶ ○おいであそぶ(尊敬) △もてあそぶ(弄ぶ・遊ぶ) ○あ

そぶ 遊ぶ ○ユウ 遊戯 ○ユ 遊山 ○ユウ

あだ (仇) ○あだを討つ あだ討ち △あだ(徒) 好意があだになる

あだおろそか(疎)にできない あだ花

あたい 価 ○商品に価を付ける 価が高くて買えない ○あたい ○カ

カ 価格 ○カ

値 ○そのもの持つ値 未知数xの値を求める ーする値があ

ち・ね 称替に値する ○あたい ○ね 値段 ○ち 数値 ○ち

あたう (能う) ○あたわずできない △あとう限りでできるだけ

あたえる 与える ○賞を与える 便宜を与える 損害を与える 貸し与える

ヨ ○あたえる ○授与 ○

あたかも(恰も) ○あたかも鏡のようだ 時あたかも あたかも良し

あたたか 温か ○温かな家庭に育つ 温かき ○あたたか 温か 温かい 温

める 温まる ○オン 温度 ○オン

暖か 暖かな毛布 暖かき ○あたたか 暖かい 暖める

ダン 暖まる ○ダン 暖房 ○ダン

あたたかい 温かい ○温かい料理 人情が温かい 温かみ ○あたたか

オン・あたたか 温か 温かい 温める 温まる ○オン 温度 ○オン

暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 暖かい 色

ダン 暖かみ ○あたたか 暖かい 暖かい 暖める 暖まる ○ダン

あたたか 暖房 ○ダン

あたたまる 温まる ○体が温まる 水が温まる 心温まる話 ○あたたか

オン・あたたか 温か 温かい 温める 温まる ○オン 温度 ○オン

暖まる。空気が暖まる。席の暖まるいとま(退)もない。○あたたか
ダン・あたたか 暖かい 暖める 暖まる。○ダン 暖房。○ダン

あたためる 温める。料理を温める。体を温める。旧交を温める。○あ
オン・あたたか たか 温か 温かい 温める 温まる。○オン 温度。○オン

暖める。室内を暖める。寝床を暖める。○あたたか 暖かい
ダン・あたたか 暖める 暖まる。○ダン 暖房。○ダン

あたま 頭。頭を下げる。頭数。頭割。頭金。頭打ち。頭から
トウ・ト・ズ 頭(な)に。○あたま。○かしら 尾頭。トウ 頭部。トウ

あたら (可惜)あたら若い命を失うおしくも あたらものたいせつ
かしら 船頭。ト(頭巾) ト 音頭。ズ 頭脳。○トウ

あたらしい 新しい。新しい年 真新しい 目新しい 事新しく 新しがり
屋。▽あたら(可惜)若い命を。○あたらしい。○あたら 新

あたり 辺り。○の辺り 辺り近所 辺り一面 辺り構わず。▽来年
あたりがいい。こころあたり。▽目のあたり。○あたり

あたり 海辺。○ペン 周辺。ペン 近辺。○ペン
○ペン 海辺。○ペン 周辺。ペン 近辺。○ペン

あたり 当たり。当たり大きい。当たり狂言。当たり年 一人当たり
反当たり 場当たりの 当たり障りがある 差し当たり

あてる 当てる。当てる。トウ 適当。トウ 勘当。○トウ
当てる。当てる。トウ 適当。トウ 勘当。○トウ

あたる 当たる。ボールが体に当たる。日に当たる。任に当たる。予報
トウ 当たる。くじ(籤)が当たる。拘留に当たる。罪 突き当

あてる 当てる。○トウ 適当。トウ 勘当。○トウ
あてる。当てる。トウ 適当。トウ 勘当。○トウ

あつ 当てる。○トウ 適当。トウ 勘当。○トウ
あつ。当てる。トウ 適当。トウ 勘当。○トウ

あたたまる — あつかましい

あちら (彼方) あちらこちら あちらの人 あちこち

アツ 圧(壓) ○四囲を圧する 圧縮 圧搾空気 圧着 精神的な圧
迫 圧倒的な勝利 圧勝 圧制に苦しむ 悪政 圧

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

アツ 悪(惡) ○財政が悪化する 悪漢 悪貨は良貨を駆逐する 悪口
アツ 雑言を吐くひどい悪口 ○アツ 悪人 アツい オ情

あつけーあばれる

い 厚かましい。○コウ濃厚。○コウ

あつけ (呆気) ○あつけに取られる。あつけない最後

あっせん (幹旋) ○就職をあっせんする 移民あっせん所

あっぱれ (天晴れ) ○あっぱれな手柄 あっぱれ、あっぱれ

あつまる 集まる。人が集まる 寄り集まる 流れ集まる 集まりが悪い

あつめる・つどう ○あつめる 集める。○つどう 集う

あつめる 集める。金を集める 取り集める 寄せ集め ○あつめる 集める

あつらえる 誂える。○服をあつらえる おあつらえ品 あつらえ向きの天気

あつれき (軋轢) ○あつれきを生じる 労使間のあつれき

あてがう (充がう) ○仕事をあてがう あてがいぶち(扶持)

あでやか (艶やか) ○あでやかな色 あでやかに飾る

あてる 充てる。○建築費に充てる 財源に充てる 保安要員に充てる

ジュウ ○あてる。○ジュウ 補充。○ジュウ

当てる。胸に手を当てる 日光に当てる 株で当てる 漢字を当てる

トウ 割りに当てる 捜し当てる 当て字 当てにする

当てがない 当て外れ 目当て 当て込む 当て馬 形式的

競争者 傷の手当て / 期末手当 △あてど(当処)もなく 歩く △あてある(中てる) 矢的的にあてある △あてある

(△宛てる) 父にあてた手紙 あて名 あて先 ○あてある 当てる 当たる。○トウ 適当 トウ 勘当 ○トウ

あと 後 ○後になり先になり 後先になる 後から行く 後を頼む

ゴ・コウ のち・うしろ 三日後の事件 後五分 後の祭りておくれ 後が絶える

おくれる 後足 / 後ろ足 後味が悪い 後厄 後押し 後

回し 後戻り 後じさり 総裁の後継ぎ / 家の跡継ぎ

跡

後払い 後書き 仕事の後片付け / 火事場の跡片付け

○あと。○のち 後程。○うしろ 後ろ。○おくれる 後れる 後

らす。○ゴ 前後。○コウ 後続。○ゴ・コウ

○足の跡 苦心の跡が見える 容疑者の跡を追う 跡目

を継ぐ 家の跡継ぎ / 総裁の後継ぎ 跡取り 足跡

跡形もなく 跡地 城跡 火事場の跡片付け / 仕事

の後片付け △あと(↓痕) 傷あと ○あと。○セキ 旧

跡。○セキ 門跡。○セキ

あな 穴 ○穴を掘る 地面の穴 針の穴 鼻の穴 穴蔵 節穴

ケツ 毛穴 穴埋め △穴(↑孔・坑) △あなかしこ(賢)

○あな。○ケツ 墓穴 ケツ。穴居。○ケツ

あながち(強ち) ○かならずしも あながち悪いとは言えない

あなた (貴方) ○あなた方 あなた任せ △あなた(↑貴下・貴男・貴女)

△あなた(↓彼方) 山のあなた

あなごる 侮る ○敵を侮る 侮り難い勢力 侮りを受ける ○あなごる

ブ ○侮辱。○ブ

あに 兄 ○兄と弟 兄嫁 兄上 兄貴 △兄(↑義兄)

ケイ・キョウ に。○兄さん(兄) ○ケイ 父兄 ○キョウ 兄弟 ○ケイ

あね 姉 ○姉と妹 姉上 姉貴 姉さんかぶり(冠) 姉御 / あね

(↑姉御製分) △姉(↑義姉) △あね(↑姐) ○あ

ね。○姉さん(姐) ○シ 姉妹。○シ

あばく 暴く ○墓を暴く 秘密を暴く 暴き出す 暴き立てる △暴

ボウ・バク ぼられる ○ボウ 暴露。○ボウ

あばれる 暴れる。酔って暴れる 暴れ回る 暴れ者 大暴れ △あばら家

ボウ・バク あばく ○あばれる。○あばく 暴く。○ボウ 乱暴。○バク

暴露 ○ポボウ

あびせる 浴びせる ○水を浴びせる 浴びせ掛ける ○あびる 浴びる 浴

あびる 浴びる ○水を浴びる 水浴び △湯あみ ○あびる 浴びる 浴び

あぶない 危ない ○道路は危ない 危ない遊び 危な絵 浮世絵 危なげない

あぶら 油 ○水と油 火に油を注ぐ ごま油(胡麻)で揚げる 油を

あぶら汗 ○あぶらシ 脂肪 ○シ

あぶる (焙る) ○火にあぶる あぶり出し

あふれる (溢れる) ○水があふれる △あふれる(溢れる) 仕事にあふれる

あほう (阿呆) ○あほうなこと △あほらしい △あほうどり(信天翁)

あま 尼 ○尼になる 尼さん 尼寺 尼そぎ(削) おかっぱ △この

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あびせる — あむ

雨あめ さめ小雨 あまあま ○五月雨あま 時雨あま 梅雨あま 雨量 ○ウ

あまい 甘い ○味が甘い 点が甘い ねじが甘い 甘い言葉 甘み

あまえる 甘える ○親に甘える お言葉に甘えて 甘ったれる ○あまい 甘

あます 余す ○予算を余す 持て余す 余すところなく見る △余す

あまた (許多) ○種類はあまたある 引く手あまた

あまつさえ(刺え) ○そのうえ 雨がひど(酷)く、あまつさえ風も強い

あまねく(普く) ○あまねく知れ渡る △あまねく(周く) △あまねし(遍し)

あまやかす 甘やかす ○学生を甘やかす 甘やかされて育つ ○あまい 甘

あまる 余る ○金が余る 思案に余る 身に余る光栄 思い余る 余

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あま(阿魔)め ○あまニ 尼僧 ○シ

あめ 天 ○天が下 天つち(地)の初めから ▽あつばれ(天晴れ)

あめ テン ○あめあま 天(下)り ○テン 天気 ○テン

あめ 雨 ○雨が降る し(の篠)突く雨強い雨 雨風 雨あられ(散)

と 大雨 長雨 雨がちの天気 雨模様 雨もよい

(催) 雨降り 雨上がり ○あめさめ 小雨 あま

雨戸 ○五月雨はつ時雨はつ 梅雨はつ ○ウ雨量 ○ウ

あや (文) ○言葉のあや あや目 ▽あや(綾) あや織り あや取り

あやうい 危うい ○命が危うい 危うく助かる 君子危うきに近寄らず 危

うげな命 ▽あやふや ふたしか ○あやうい 危うい 危ぶ

あやしい 怪しい ○挙動が怪しい 怪しい男 怪しがる ▽あやしい(妖)妖

い(奇しい) あやしい姿 あやしい光 ○あやしい 怪し

い 怪しむ ○カイ 怪物 ○カイ

あやしむ 怪しむ ○男を怪しむ 信じて怪しまない ○あやしい 怪しい 怪し

カイ・あやしい む ○カイ 怪物 ○カイ

あやつる 操る ○陰で操る 操り人形 ○あやつる ○みさお 操立て。ソ

ソウ・みさお ウ 操縦 ○ソウ

あやぶむ 危ぶむ ○成り行きを危ぶむ 成功が危ぶまれる 危ぶみ恐れる

キ ▽あやふやな態度 ○あやうい 危うい 危ぶむ ○あぶない

あやうい・あぶない 危ない ○キ 危険 ○キ

あやまち 過ち ○過ちを犯す 同じ過ちを繰り返す 大それた(逸)過ち

カ ○あやまつ 過つ 過ち ○すぎる 過ぎる 過ごす 過ぐる

あやまつ・すぎる ○カ 通過 ○カ

あやまつ 過つ ○過つのも無理はない 過つて殺す 過ちでは改むるに

カ ○あやまつ 過つ 過ち ○すぎる 過ぎる 過ごす 過ぐる

すぎる ○カ 通過 ○カ

あやまる 誤る ○適用を誤る 書き誤る 書き誤り 誤りを見付ける

ゴ 誤りを正せ ○あやまる ○ゴ 誤解 ○ゴ

謝る ○手落ちを謝る 謝つて済ませる 謝り証文 平謝りに謝

る ○あやまる ○シヤ 感謝 ○シヤ

あゆむ 歩む ○休まず歩む 牛の歩み 両者が歩み寄る 歩み寄り

ホ・フ・フ ○あゆむ ○あるく 歩く ○ホ 歩道・ホ 進歩 ○フ 日歩り

あるく ○フ 二歩 ○ホ

あら 新 ○新手の敵 新物/荒物屋 新巻き甘塩のさけ/荒巻き

シヤ・あらた わら巻きの魚 ○あらた 新た 新手 ○あたらしい 新し

あらい 荒い ○波が荒い 気が荒い 金遣いが荒い 荒立てる 荒海

コウ 荒仕事 荒縄で縛る 荒壁 荒削り 荒物屋/新物

荒巻き わら巻きの魚/新巻き甘塩のさけ 荒っぽい 荒々

しい 手荒な扱い 荒くれ男 ▽荒い(暴い) ▽あ

らましを述べる あらまし済んだ ○あらい 荒い 荒らげる

○ある 荒れる 荒らす ○コウ 荒廃 ○コウ

粗い ○網の目が粗い きめ(肌理)が粗い 仕事が粗い 粗粒

粗筋 粗っぽい ▽あらかた読んだ ▽あらを捜す 魚の

あら あらと(粗砥)といし ○あらい ○ソ 粗密 ○ソ

あらう 洗う ○洗濯機で洗う 足を洗う 手洗い 手洗所 洗い粉

セン 洗い張り 洗いざらし(晒)の布 洗いざらい(浚)出す

こい(鯉)の洗い料理 ○あらう ○セン 洗剤 ○セン

あらかじめ(予め) ○あらかじめ知らせる あらかじめ決めておく

あらし (嵐) ○あらしの前の静けさ ▽あらし(暴風・暴風雨)

あらす 荒らす ○畑を荒らす 荒らし回る 食い荒らす 道場荒らし/ヤ

コウ・ある 荒る あらい まあらし 動物 ○ある 荒れる 荒らす ○あらい 荒い 荒